

1. 評価結果概要表

作成日平成20年11月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3771700899
法人名	医療法人社団 愛有会
事業所名	グループホームオリーブ苑
所在地	香川県三豊市詫間町詫間679-40 (電話)0875-56-5811

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年10月6日	評価決定日	平成20年11月13日

【情報提供票より】(20年9月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年6月1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	7人 常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	9,000円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100円
	または1日当たり	1,050円	

(4) 利用者の概要(9月9日現在)

利用者人数	9人	男性	0人	女性	9人
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.4歳	最低	77歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療社団法人愛有会 岩崎病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営理念である「愛情・やさしさ・尊重」を実践していることが、利用者の笑顔・明るさからうかがえる。援助に対して、チームワークが非常に取れており、援助に落ち着きがあることで、利用者の生活にも落ち着きを感じられる。リスク管理や感染症対策などが行き届いており、重度化した時でも安心して生活できる体制がある。また、地域交流にも積極的に地域行事へ参加するだけでなく、民生委員やボランティアなどを事業所へ受け入れたりし、事業所内外で活動を行なっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題については、職員全員で話し合う機会を設け、対応している。前回課題の、地域交流の増加や利用者の私物増加に対して、積極的に取り組み実現させている。玄関管理の問題は、運営推進会議の議題にも取り上げ、継続的に改善策を模索している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員が、評価表を見ながら項目ごとに意見を出し、事業所全体で積極的に自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行事や研修の報告だけでなく、事業所が抱える改善点について話し合っている。また、地元自治会からの地域活動への参加依頼があったことにより、地域活動に結びつききっかけになった。市職員の参加回数が少ないため、今後、積極的参加による行政機関との連携の発展に期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に対して、利用者の写真入り便りを作成するなど、定期的な報告と緊急時の電話連絡・報告を積極的に行い、家族が不安にならないように対応している。また、面会時の意見聴取だけでなく、玄関への意見箱の設置、独自のアンケート調査(無記名)を実施し、いただいた意見をケアに反映させる取組みをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の文化祭やカラオケ大会、運動会などに積極的に参加している。文化祭においては、見学に行くだけでなく作品を出品し、事業所をアピールするなど地域への働きかけも行なっている。また、民生委員やボランティアなどを事業所へ受け入れたりし、事業所内での活動も行なっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営母体である医療法人社団とは別に、ホーム独自の運営理念をつくっている。「愛情・やさしさ・尊重」を常に意識して、ケアを行なっている。ただ、大きい理念なので、利用者・家族・地域の方により理解いただけるようにサブタイトルを思案している。	○	思案中のサブタイトルが作成され、より多くの人たちが理念を理解できることに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼で唱和をすることで理念を確認すると共に、管理者が現場の中で具体的な説明を分かりやすく行なっていることで、理念が浸透し理念に基づいた実践ができている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭やカラオケ大会、運動会などに積極的に参加している。文化祭においては、見学に行くだけでなく、作品を出品し、事業所をアピールするなど地域への働きかけも行なっている。また、民生委員やボランティアなどを事業所へ受け入れたりし、事業所内での活動も行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善課題については、職員全員で話し合う機会を設け、対応している。前回課題の、地域交流の増加や利用者の私物増加に対して、積極的に取り組み実現させている。玄関管理の問題は、運営推進会議の議題にも取り上げ、継続的に改善策を模索している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や研修の報告だけでなく、ホームが抱える改善点について話し合ったりしている。また、地元自治会からの地域活動への参加依頼があったことにより、地域活動に結びつききっかけになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	合併により市役所までの距離が遠いが、月1回程度は、市役所を訪問するなど交流・連携への努力をしている。	○	市職員の運営推進会議への参加回数が少ないように思われる。参加いただけるような働きかけにより、行政機関との連携の発展に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に対して、利用者の写真入り便りを作成するなど、定期的な報告と緊急時の電話連絡・報告を行い、家族への報告を積極的に行うことで、家族の不安に対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の意見聴取だけでなく、玄関への意見箱の設置、独自のアンケート調査(無記名)を実施し、いただいた意見をケアに反映させる取り組みを実施している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にしている。異動や新規採用があった場合は、利用者に影響がないように、利用者の状態把握が速くできるように努力している。家族への報告は、便りを通じて行なっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での学習機会(ミーティング・月1回)だけでなく、グループホーム協議会主催の研修会への派遣も積極的に行なっている。その他の研修は自主参加にしているが、参加者は多い。また、管理者が現場の中でアドバイスすることにより、実践場面でのトレーニングが行なえる環境がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修会へ参加することにより、交流・情報交換が行なわれている。また、グループホーム相互評価事業にも参加しており、結果をミーティングや運営推進会議で発表し、サービスの質の向上へつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学していただき、入居後も状況により、家族の面会を多くしてもらったり、外出・外泊などを依頼することで、家族を交えながら馴染めるような工夫をしている。	○	事前面接の機会を設けることにより、入居前の生活状況をより把握することで、馴染める工夫の幅が広がることを期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や盛り付けの仕方を教えてもらったり、古くからの習慣、習わしについて教えてもらうことが度々ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅で飼っていた犬をホームに入っても飼いたいという希望を実現し、犬の世話を一緒に行なうなど、希望、意向を把握している。家族からも面会時などで意向を聴取している。	○	利用者が意向を伝えられない場合、利用者本人が持つ「できること」「していること」をもっと引き出すことによって、援助計画内容が豊かになることを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的に本人から意見を聴取したり、家族も面会時などで、要望・意見を確認した上で、職員全員出席の会議で計画を立案している。	○	サービス担当者会議へ家族が参加できる機会を増やし、計画への意見反映が直接できるようになることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回、定期的に見直しを行っている。見直しの必要があった場合は、期間に関係なく随時見直し対応している。見直しに対しても評価表を活用し、必要性について適切な判断を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入居前に飼っていた犬を引き取り、飼育したり、希望に応じて買い物やうどんを食べに行くなど、柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族の希望にそっている。特になければ、協力病院に依頼しているが、この場合でも必ず了承を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	すでに要介護5の利用者が2名おり、重度化した場合でも対応できることを説明している。終末期についても、看取りに関する説明、同意を行い、本人や家族に対して支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけは自尊心を傷つけないような言葉で声をかけている。各居室のドアを閉めることに気を配りつつ、利用者の希望で開放した場合でもプライバシーに配慮できるようカーテンを使用している。記録も鍵のかかる場所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動の参加は、本人の意向を尊重し行なっている。また、重度で臥床の必要性がある方に対し、離床可能な範囲にあわせて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の重度化により、できることが少なくなってきているが、調理場面に立ち会ってもらい、助言をもらったり、買い物と一緒にいたり、配膳準備や片付けを手伝ってもらうなど、できる範囲で一緒に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は、午前中に入浴しているが、以前は午後を希望し対応しており、本人の希望に対応できる体制を有している。重度化により、福祉用具を活用しつつ2人で介助するなど、安心感を与え楽しく入浴ができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみ、洗濯干し、掃除、かたづけ、犬の散歩など、入居者にあつたホームでの役割を考えつつ、ぬり絵や作品づくり、外出などの楽しみごとへの支援も行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や犬の散歩、買い物、外食などその人の希望に沿って適時外出を支援している。	○	天候や体調への配慮もあるが、気軽に外出できる機会が増えることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面玄関は、交通量の多い道路に面しているため、安全面に配慮し施錠している。	○	運営推進会議でも議論し決定しているが、議論を継続し工夫により、開錠への取り組みが実施されることに期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員などの緊急時連絡網体制やマニュアル整備、年2回の避難訓練など、災害対策を心掛けて実施するとともに、運営推進会議で地域へ協力が得られるように働きかけている。	○	火災面だけでなく、風水害や地震など多岐にわたる災害対策への取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、管理栄養士が作成し、栄養バランスに配慮している。食事量や水分量の記録や摂取量への配慮もあり、少なくなると摂取量が増えるよう介助していくようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造空間に合うロールカーテンや掘りごたつ、畳の間の設置、座れるようにソファを設置したり、落ち着いた空間・照明を演出している。入居者、職員で作成した季節作品もあり、居心地の良い共用空間づくりに工夫が施されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の所持品を持ち込んだり、入居者の身体状況に合わせて畳の居室に変更したりするなどの配慮をしている。	○	個々の馴染みの品を増やし、その人らしい個性的な居室空間の演出に期待したい。